

報部

FAX 03(3595)6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

大地震ハイチどんな国?

中米ハイチを直撃した大地震。救援活動は難航し、被害の拡大が懸念されている。同国はカリブ海に浮かぶ「西半球の最貧国」。ただ、日本での実情に触れる機会は少ない。同国と交流のある日本人たちに暮らしの姿などを聞いた。(秦博哉)

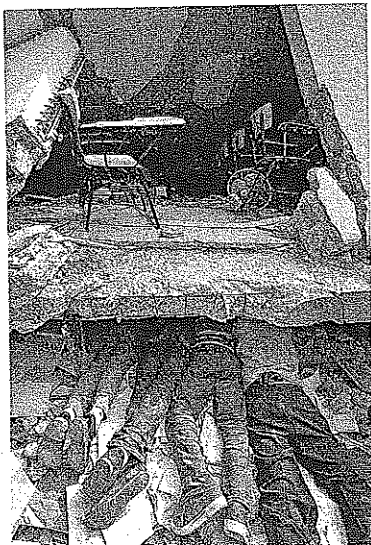
中米ハイチを直撃した大地震。救援活動は難航し、被害の拡大が懸念されている。同国はカリブ海に浮かぶ「西半球の最貧国」。ただ、日本での実情に触れる機会は少ない。同国と交流のある日本人たちに暮らしの姿などを聞いた。(秦博哉)

「貧困の最大原因はフランスによる植民地支配の経済構造が現在も残っていること。フランスはハイチにコーヒーや砂糖などを作らせたが、その構造が独立後も産業の近代化を阻害してきた。北海学園大学の浜志雄教授(ハイチ史)は、ハイチの貧困は植民地支配の結果と指摘する。

「一八〇四年に独立して黒人初の独立国となったが、当時、奴隷制度を維持していた米国は一八六二年まで同国を承認し

貧困

- ◆ 植民地の名残 人種対立も
- ◆ 家屋は単純 被害想定外?
- ◆ 低い識字率 医療面も遅れ



14日、ハイチの首都ポルトープランスで、倒壊した学校のがれきりに降り、生存者の救出を試みる市民たち＝ロイター

明るく、礼儀正しい国民性

今回の大地震では、山 暮らしの姿はどのような急斜面に立つ住宅が壊か。佐藤氏は「貧困は自減状態となった。一九八八年以降、二十回以上八イチを取材してきたフォトジャーナリストの佐藤はアイロンをかけたスポ文則氏(左)は、現地の住宅について「日本のプロも

を掛けた。背景には、国内の人種対立があるといふ。浜教授は「大多数の黒人と、エリート層を形成するムラト(黒人と白人の混血)の対立が根強い。政治的にも反発している」と説く。

今回の大地震では、山 暮らしの姿はどのような急斜面に立つ住宅が壊か。佐藤氏は「貧困は自減状態となった。一九八八年以降、二十回以上八イチを取材してきたフォトジャーナリストの佐藤はアイロンをかけたスポ文則氏(左)は、現地の住宅について「日本のプロも

米国、隣国のドミニカ共和国に移り住んだ人が家族の中に一人か二人はいる。海外からの仕送りが国家予算に相当するとも言われ、若い人にとっては米国やカナダで成功することが夢。でも、識字率は低く、教員のレベルや学校数も足りない。

医療サービスも遅れている。平均寿命は男性が五十一歳、女性が五十二歳。二〇〇三年から約一年間、ハイチの感染症研究所に勤務した長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授(国際保健学)は「人口当たりの医師や病院数は先進国の数十分の一。エイズウイルス(HIV)感染者も成人の517%に上り、結核患者の半数はHIVに起因して発症している。病気の人も貧しさで受診できないのが実情だ」と話す。

困難な日常の下での今回の大地震。前述の三人とも、「緊急の海外援助は欠かせない」と異口同音にとなえた。